

■ 充実した3学期に！



1月14日(金)から3学期が始まりましたが、少しずつ日常の感覚を取り戻していますか？ オミクロン株の感染が急拡大していると言われており、全国的にもこの1週間ほどで、爆発的に感染拡大傾向にあります。そのような中、3年生諸君の中には、先週末、大学入学共通テストを受験してきた諸君もいます。1・2年生で大学進学を考えている諸君は、さまざまな手段で問題を見ることができますので、1度解いておくとい良いでしょう。本校でも、独自に各教科で解説や対策ポイントについてまとめていますので活用しましょう。

3学期は1年間のまとめの時期になります。先にも記したように、コロナウイルスの感染再拡大に不安を感じている諸君もいるかと思いますが、この3学期が充実した時間となることを期待します。

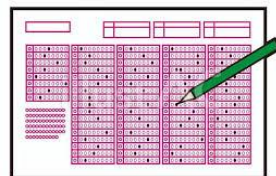
■ 3年生の学年末考査に向けて

1月25日(火)から27日(木)にかけて、3年生の学年末考査が実施されます(※特進等、大学等の一般受験を控えている生徒を除く)。高校最後の定期考査になります。進路も決定し、気が緩んでいる人もいることと思いますが、「これまでのがんばりは何だったの？」という結果にならないように気をつけましょう。進学希望者にとっては、高校在学中の学習は進学先での基礎基本になるでしょうし、就職希望者も、内定企業に「残りの高校生活を少しでも充実させる」と誓っています。それぞれ良い結果となりますように！



■ 大学入学共通テストについて

1月15日(土)・16日(日)に実施された大学入学共通テスト。本校でも特進コース、進学コースの3年生が受験してきました。学校としても、各教科で問題を分析して生徒諸君に対策方法などを提示していくことと思います。十分に活かしていくようにしましょう。



さて、古い話になってしまいますが、大学入学共通テストの前身とっていい、かつての共通一次試験や大学入試センター試験は、1年目と比較して2年目は難化したとされています。今回の大学入学共通テストにおいても、そのような予想が立てられていましたが、特に数学はその傾向に当てはまったようです。1・2年生のみなさんは、普段の学習を通して基礎基本を定着させていくとともに、傾向をつかんで対策を立てて学力の向上を図ってほしいと思います。

■ 3年生の合格体験記

これまでに多くの3年生が大学等の合格や企業からの内定を得ています。今後、少しずつ合格体験記を掲載できればと考えています。今回は、総合型選抜で東北福祉大学に合格した吉田千紘さん(3年4組)と学校推薦型指定校制で東北学院大学に合格した本多優成君(3年5組)、さらに白河信用金庫に内定している芳賀涼太君(3年6組)です。1・2年生のみなさんはぜひ参考にしてください。

【合格体験記】 吉田千紘さん(3年4組)
東北福祉大学教育学部教育学科合格

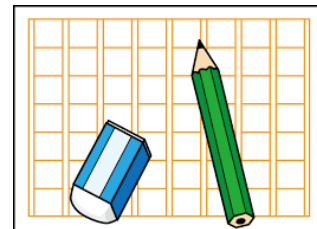


私が志望校を決めたのは、3年生の7月でした。それまでは、国公立大学に行きたいと思っていました。しかし、偏差値が上がらず、私立大学一本に決めました。

私は総合型選抜で受験しました。一次試験は筆記試験、二次試験はプレゼン・ディスカッションでした。私は取りかかりが遅かったので、とても焦りました。計画的にやるべきだったと後から気づきました。1年生のうちからもっと勉強しておけば良かったなあと後悔もしました。自分は、まだ先だから大丈夫と思っていたのが甘かったです。

私は試験の時、不安は大きかったです。それ以上に「受かりたい!」という思いが大きかったです。なぜなら、たくさんの方々の協力があったからです。私一人の力では絶対に無理でした。最初から最後まで細かく計画し、指導してくれた先生、面接の練習をしてくれた先生、プレゼンを作るにあたり、話を聞かせてくれた養護の先生。自分のこともあるのに、私のために時間を作ってくれた友達。様々な面からサポートしてくれた家族。無事に合格した時は、みんな喜んでくれました。本当にありがとうございました。この恩を忘れずに大学で頑張っていきます。

【合格体験記】 本多優成君(3年5組)
東北学院大学文学部歴史学科合格



私は野球部に所属していましたが、夏の県大会終了後、東北学院大学の指定校制で受験したいと考えるようになりました。

東北学院大学は、小論文の内容が他と比べても難しいのでたくさん練習をしました。出題パターンが毎年似ているので過去問も繰り返し練習しました。要約のコツをつかむこと、長文の読解力が必要となってくるので本なども多く読んでおくの良いと感じました。
(裏面に続く)

小論文で出題されるテーマの癖として、その年に起きたニュースから出題されるので、大きな話題となったことはもちろん、あまり大きくは取り扱われなくても重要と思ったニュースについては、きちんと知っておいた方が良いと思います。

本番は本文の内容が難しく理解するのに少し時間がかかりましたが、とにかくひたすら思いついたことをどんどん書いていくようにしました。もちろん、構成はしっかりと考えたうえで書いていく必要があります。私は文章を書くことが得意だったので、すんなり書くことができました。

志望理由書なども評価の対象となるので、しっかりとした内容で書くようにすると良いと思います。

【合格体験記】 芳賀涼太君（3年6組）
白河信用金庫内定

私は希望していた白河信用金庫から内定をいただきました。まず、私が白河信用金庫を希望した理由は、私の地元でお世話になった地域の方々に恩返ししたいと思ったからです。昨年度の卒業生である1つ上の先輩が勤務していて、いろいろ話を聞いていて、魅力を感じたのも理由の一つです。

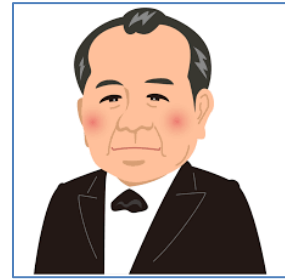


私が白河信用金庫を希望するようになってから特に努力したのは面接です。夏休み中は実家に帰っていた事もあり、面接の練習を本格化させたのは、2学期が始まってからでした。毎日のように担任の先生をはじめ、多くの先生方にご協力いただきながら練習しました。面接で気を付けた事は、入室や面接中の態度、言葉づかいなどです。普段の生活から気を付けるようにし、試験本番に臨みました。

試験の内容は、学科試験（5教科と信用金庫についての基礎知識）、作文（600字程度）、面接（受験者1名に対して面接官3名）でした。普段から少しずつ基礎学力を身に付けられるようにしっかりと勉強しておくべきだと感じましたし、作文も国語の先生に見ていただいたお陰で何とか書く事ができました。やはり、普段から練習しておく事が大切だと思います。採用試験の結果は無事合格で、とてもうれしかったです。

私は残り少ない学校生活をもう1度見直して、4月からの社会人生活を良い形でスタートを切れるように頑張っていきたいと思います。そして、早く一人前の社会人になれるように努力していきたいです。皆さんの中で就職を希望する人は、毎日の生活を充実させ、悔いが残らなくて済むように頑張ってください。早くスタートを切って準備していけば、きっと結果は付いてくると思います。

■ 渋沢栄一の話



昨年のNHKの大河ドラマ『青天を衝(つ)け』を毎週欠かさず見ていたという人もいることでしょう。その主人公・渋沢栄一は、明治期に約480社もの会社の設立に成功して「日本資本主義の父」とか「日本実業界の父」などと呼ばれ、2024年から新しい1万円札の肖像画になる人物であることは、筆者が授業を受け持っている中学2年生の大部分の生徒も知っていますので、高校生のみなさんは当然知っていることと思います。

渋沢栄一の残した「夢七訓」はよく知られています。4月の始業式をはじめ、校長先生が今年度の節目節目で話されていました。「夢なき者は理想なし／理想なき者は信念なし／信念なき者は計画なし／計画なき者は実行なし／実行なき者は成果なし／成果なき者は幸福なし／ゆえに幸福を求むる者は夢なかるべからず」。つまり、「『夢』を持つことで、その実現のために、理想を持ち、信念を持ち、計画的に実行することで成果が得られ、最終的に幸福になれる」ということでしょう。「幸福になるためには夢を持つことが大事だ」ということになります。ぜひ、普段から心にとどめておいてほしい言葉です。

さて、先にも記したように、渋沢栄一は「日本資本主義の父」などと呼ばれたりしますが、決して「どんな形でも利潤追求できれば良い」と考えていた人物ではありません。渋沢栄一は、本校の建学の精神でもある「孔子の教え」、つまり、『論語』の影響を強く受けた人物であり、「道德」をととても重要視していました。

渋沢栄一が自身の講演録をまとめた著書『論語と算盤(そろばん)』は、守屋淳さんによって現代語訳され、ちくま新書から出版されています。その中から、みなさんにもぜひ心掛けてほしいことを1つ引用します(※引用箇所は「 」内)。「『忠』・・・良心的であること、『信』・・・信頼されること、『孝弟』・・・親や年長者をうやまうことなどを重視するのは、とても権威のある人格の養成法だと信じている。要するに、忠信孝弟を重視するのは、「仁」・・・物事を健やかに育(はぐく)むという最高の道德を身につけるために、また、社会に生きていくうえでも一日も欠かせない条件なのだ。この忠信孝弟を、自分を磨くうえでの基本にすえたなら、さらに進んで知恵や能力を発展させていくための工夫をしなければならない。～中略～ 知恵や能力がきちんと発達しているからこそ、物事に対してよし悪しの判断ができ、生活を豊かにしていける。この結果、忠信孝弟のような根本的な教えと一致した形で、世を渡るうえでの誤りや失敗もなく、成功した人として人生を全うできるようになる」。上述のことが渋沢栄一の考え方の根底にあり、「渋沢の生き方」として、生涯貫いたものであったのではないかと思います。

人生において、特に何をもって「成功」と言うのかはそれぞれに価値観も異なり、一概にどうこう言えない部分もあるように思います。ただ、渋沢栄一の生き方、その根底にある「孔子の教え」にしっかりと耳を傾け、学んでおくことは、それ自体、価値のあることではないかと考えます。それによって、人生の岐路に立たされたときなどに、より良い(より正しい)選択をしていけるのではないかと筆者は思っています。高校で「孔子の教え」に触れる機会が多いみなさんは、きっと人生の荒波を自分の力で乗り越えていけることでしょう。

文責：清水聖(進路指導主事)